

問題発見型／解決型学習(FBL/PBL)
テーマ提案（学生募集内容） / Project Proposal

テーマ名称 Project name	“京北フォト・ロゲイニングβ版から正式版へ”－集落エリアにおける新たな居住のデザイン Vol.4 統合的学びの場として集落をゆるく体験する仕掛けの実装－ / <i>Upgrading Keihoku photo regaining – Designing contemporary village lives Vol.4: Slow tourisms for children’s village culture learning</i>
実施責任者 Instructors	工学研究科建築学専攻 教授 神吉紀世子 デザイン学ユニット 特定准教授 十河卓司
実施協力者 Collaborators	<p>①フィールド（京北）協力者</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ NPO 法人京北コミュニティビジネス ・ 京北森林組合 ・ 京都市（京北）林業研究会 ・ 京都府立ゼミナールハウス ・ 京北自治振興会 ・ いろいろな京北所縁の方々 <p>②2013～2015 年度京北 FBL 参加本科生（可能な範囲で）</p> <p>③International Discussant</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 飯田恭子 europaischen LEADER Region Regionalforum Fulda-Südwest EU LEADER プログラムリージョナルマネージャー（在ドイツ, Dr.-Ing.）
テーマの背景 Background	<p>2013 年度以来の京北地区（京都市右京区、旧京北町）を舞台とした FBL/PBL の 4 年目。1～3 期の歴代履修者が製作した親子参加のフィールド探検ゲームプログラム「京北ロゲイニング」を正式版に発展させつつ、この 3 年でも変化がみられる複雑な地域事情の中で新たな居住の実践に関わる人のつながりをロゲイニング開催を通じて創出する。</p> <p>→これまでの様子：http://fbl2013keihoku.wiki.fc2.com/</p> <p>-----</p> <p>（年度共通の背景）サステナブルな居住域の形成と持続のためには、都市縮小・メガシティ化のどちらの傾向においても、都市の外側の集落エリアの持続が必要である。集落エリアは一次産業低迷や過疎高齢化の傾向にあるが、優れた自然環境・歴史的資産を有する地域であり、必ずしも既存のスタイルに閉じない新たな居住や生業のあり方が目指せる地域として、持続の具体策が取り組まれている。そこではいわゆる「地域活性化」は目標としておらず、少数でも着実に「地域定住」することが目標に掲げられている。この状況は国内外を問わず存在する。</p>

<p>実習の概要 Overview</p>	<p>本 FBL の特徴は、歴代履修生が現在まで関わりを維持しその引継ぎにより地域実践を行っていることである。今年度は4年目。京都市北部の山間部、京北地区(217.68km²)を主フィールドとし、ここに様々なスタイルで移住定着する人が今後も確実に現れることをサポートする方法をデザインしようとしてきた。Vol.1から3にかけて、地域づくり主体や来住者へのヒアリング、地域課題の読解、広域圏の中での京北-京都の位置づけ、等の考察から、京都の若い親子に京北の環境を知る機会を提供する仕掛けとしての「フォト・ロゲイニング(以下、フォトログ)」の京北カスタマイズ版が発案され、試作・実験的開催までを手掛けてきた。</p> <p>現地の状況も複雑に変動している。移住者の増加、新しい生業の登場も進む一方で、小学校統廃合の現実化(移住者にとっては教育環境上の懸念にもなり得る)のように持続が揺れる変化もあり、「新たな居住」はいまだ点的で個別の現象のように見えてしまう。2015年度末に試行にこぎつけた「京北フォトログ」は様々な人・親子を「つなぐ」こともねらいとしてプログラム化されたもので、今はその「つなぎ」の可能性を改めて検討するタイミングにあると言える。</p> <p>そこで今年度は、冒頭に歴代履修生も議論に関わり、地域づくり上の課題と「京北フォトログ」の関係のつくり方を改めて考察検討することから始める。より気軽に開催できる正式版へとプログラム自体アップデートが必要である。期間中のプログラム開催も含めて、複雑な地域事情の中で様々な人の関わりそのものをデザインする、難しいが重要なステップに挑戦しよう。</p> <p>※フォト・ロゲイニングはオリエンテーリングに類似する、地図を参考に一定時間内に野外の所定の場所を回って課題写真を撮りポイント獲得を競うゲーム(参考：https://ja.wikipedia.org/wiki/ロゲイニング、http://photorogaining.com)</p>
<p>実施計画、実施場所 Schedule, location</p>	<p>打ち合わせは主として KRP で行う。現地調査、および、フォトログ実施は、京北地区内である。</p>
<p>履修条件 Conditions for participation</p>	<p>京北地区での調査・活動は土曜日・休日開催となる(通常1泊2日)。複数回の休日を費やすことになることを前提としている。</p>
<p>募集人数 / Number of participants</p>	<p>2～4名程度</p>
<p>1次募集締切 Application deadline</p>	<p>10月7日(金)</p>
<p>応募資格 Intended participants</p>	<p>応募多数の場合には、デザイン学履修者を優先する。</p>
<p>応募方法 How to apply</p>	<p>デザイン学公式 Web の FBL/PBL のページ(下記)から参加申込を行うこと。 http://www.design.kyoto-u.ac.jp/activities/fbl_pbl/</p>
<p>参加者の決定 Decision of participants</p>	<p>10月13日(木)までにメールで参加の可否を通知。 ※1次募集で参加不可となった者を主な対象として2次募集を行う(10月14日～18日)。参加者枠に余裕のあるテーマに応募可能。(原則として先着順)</p>

問題発見や解決に用いるデザイン理論やデザイン手法 Design theories and methods for framing and solving problems	Landscape Survey (現地踏査：民家調査、集落調査、自然地調査, 史料：旧版地理情報の解読等, 社会調査：各種インタビュー調査, 生活史・生業史インタビュー他), グループワーク (プログラム企画立案) 等
理論や手法の学習方法 How to study theories and methods	現地踏査は現地実習形式。参考文献・史料の扱い方、インタビュー調査の手法は事前講義で解説する。Web 上で参考情報を共有する。
成果の公開方法 Publication of the results	終了後または逐次 Web 上で公開
成績評価方法 Evaluation	出席 4 割 活動状況 3 割 (最終レポート含む) 実施運営 3 割
特記事項 Special remarks	

実施計画 / Schedule

コマ Unit	日程 Date	場所 Location	実施内容 Content
2	10 月	京大 KRP (含・Skype Lecture)	17 日以降出来るだけ早く開催 (メールで調整します)。オリエンテーション、これまでの実績概説、 <u>日程の決定、進め方決定。歴代履修生も加わって今年度のアジェンダ検討。</u>
5	11 月	京北	プログラムのための現地調査、プログラム具体化作業①
5	12 月	京北	プログラムのための現地調査、プログラム具体化作業②
3	1 月	京大／京北 (含・Skype Lecture)	プログラム具体化作業・準備、諸手配 (以上も、参加者で知恵を出し合いながら相談しましょう)